

先人の偉業を受け継ぎ創業100周年 町営東陽食肉センター

町営東陽食肉センターは、今年5月に創業100周年を迎えました。5月29日には、100周年を記念し町民会館大ホールを会場に記念式典が執り行われました。

食肉センターの歴史

明治43年創業開始

町営東陽食肉センターは、村営「東陽と畜場」として、



▲村営から町営となった昭和30年頃のと畜場



▲創業100周年を記念して盛大に式典が行われました

明治43年5月に現在の宮川地区約300坪の敷地に創設されました。創業当時は獣肉を食する習慣があまりなかったことなどから、利用業者わずか5、6名から食肉センターの歴史は始まりました。大正10年頃には、三里塚（現成田市）方面の

食肉組合から100周年の記念碑が贈られました



業者も加入し、13名が利用業者として参加、大正12年関東大震災後に東京の食肉直売所に枝肉の出荷を始めた業者により、県外への出荷が開始され、より広範囲の業者が利用し規模が24名に拡大しました。昭和15年には、当時県内にあった24のと畜場の中で総と畜頭数が第1位までに成長しました。昭和24年には、敷地面積が約722坪に拡張されました。

設備の近代化

昭和29年に光町が誕生し

たことにより村営「東陽と畜場」から「光町東陽と畜場」と改称しました。当時の1万頭を超えると畜数に対応するため、昭和30〜34年度には、増改築や冷蔵庫が設置されました。昭和41年になると、と畜頭数は年間11万頭を超え、増え続けるとと畜頭数に設備が追いつかない状況が起りました。施設の老朽化と、と畜頭数の飛躍的な増加によって処理能力の限界に達したことから、昭和43年5月、現在地に新築移転しました。新築後の1日あたりの処理能力は小動物（豚、馬、羊、ヤギ、生後1年未満の牛）550頭、大動物（生後1年を超えた牛）10頭と全国的に注目を集める処理能力を誇ると畜場となり、昭和45年には急速冷凍室と枝肉カット室が増築されました。こうして食肉供給基地としての機能が備わったことから昭和47年に「光町営東陽食肉センター」に改称されました。と畜実績が20万頭を超えた昭和54年には、と畜本館の増築や日本初のべ